

## 付表A. RSL管理のためのブランド戦略

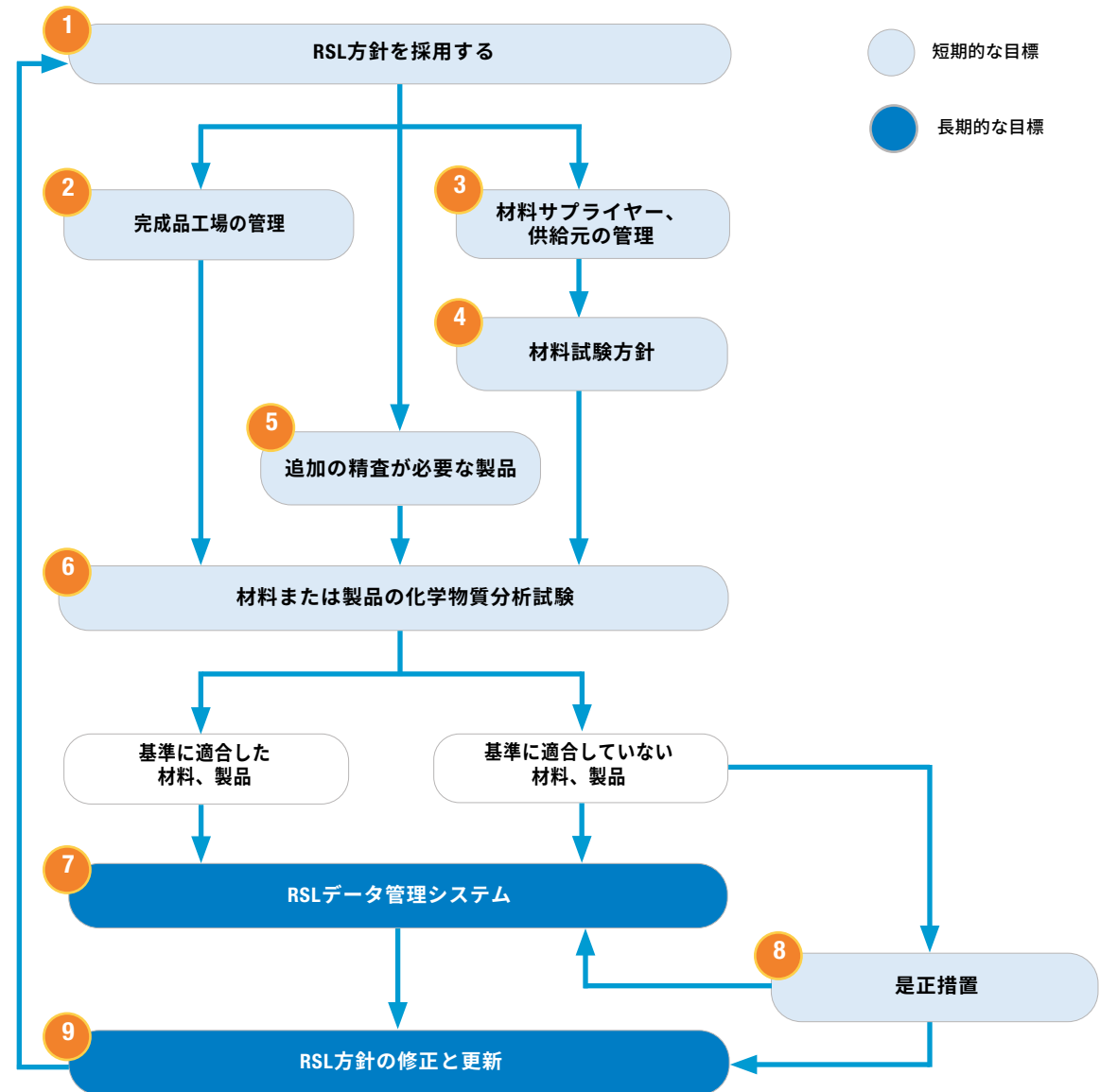
付表Aは、ブランドがRSLを遵守するための健全なプログラムを開始するための道筋を示したものです。図3は、プログラム管理のための最適な方法を、それぞれのステップごとに文書で示しています。AFIRMでは、各ブランドがRSL遵守の要求事項を購買プロセスに組み込むことで、ソーシングの決定に不可欠なものになることを強く奨励します。

### 1 RSL方針を採用する

AFIRM\_RSLは、コンプライアンスへの取り組みを始めるブランドにとって良い出発点となります。ただし、これが唯一の方針ではありません。ブランドにとっては、製品の範囲を適切にカバーする方針を取り入れることが重要です。

取組みを始めるにあたり、RSLリスクを最小限に抑え、短期および長期の目標を明確にするため、全体的な管理戦略を示します。これらの目標の事例を次のページに示します。

図3. 健全なRSL方針の実施



短期的な目標の例:

- 材料ごとのRSLリスクを特定する（セクション3および付表BおよびDを参照）
- RSLリスクコントロール戦略を作る。
- RSLリスク管理を強化するために、追跡レポート・システムを開発する。
- 毎月、全てのRSLテスト結果を経営陣に報告する。

長期的な目標の例:

- 工場や供給元の適合状況を追跡するための評価システムを作り上げる。（例えば、スコアカード）
- 将来のソーシングを決定するために、評価結果を利用する。
- 供給元とRSLデータベースを共有する。

## 2 完成品工場の管理

貴社の工場の所在地を特定し、下記の件を含むリストがあることを確認する。

- 工場名
- 所在地
- 工場のRSL担当者名
- 工場のRSLプロジェクトチーム – RSLの遵守に責任を持つスタッフ

## 3 材料サプライヤー、供給元の管理

供給元により、リスクは異なります。RSL管理戦略は、制限物質に関するグローバル基準を、さまざまな供給元が理解し、納得したものであるべきです。グローバルで認められた供給元は、これらに対する知識を持つことが多いですが、グローバルでない供給元も、努力して、この知識を持っているかもしれません。また、RSL適合や分析(合格、不合格)などに関するサプライヤー・製品追跡記録なども考慮してください。

供給元からのリスクを最小限にするために、管理戦略を策定してください。

- RSLリスクによって、供給元を分類していますか？
- リスクの高い供給元と、リスクの低い供給元をどのように定義していますか？
- 新しい供給元が、RSLの要求事項を理解し、遵守するにはどのようにすればいいですか？

## 4 材料試験方針

完成品工場が使っている材料サプライヤーと、それらが供給する材料のリストを作ってください。それらの材料のどれかが、リスクを高めることはありませんか。例として、

- リスクの高い材料には、天然皮革、合成/人工皮革、TPU、金属、射出成形材料、インク、塗料などがあります。
- 色としてリスクが高いものは、蛍光色や、黒色の製品、メタリック仕上げをした製品など。
- 皮膚に直接触れる製品もリスクは高いと分類されます。

## 5 追加の精査が必要な製品

生産量の多い製品、子供向け製品、皮膚に直接接する製品など。

それらの製品への追加試験の詳細については付表B、図7を参照してください。

## 6 材料または製品の化学物質分析試験

RSLを管理する最良の方法は、製品の化学物質に関する深い知識を持つスタッフを雇うことです。供給元での工程と、使用する化学物質を知ることは、製品における化学物質を理解するための重要な要素です。これは、材料のSDSを調査するか、サプライヤーと話し、工場を訪問することで達成することができます。（付表H、SDSの例と解説を参照）

製品における化学物質をより理解するためのもう一つの方法として、化学物質の分析試験があります。生産工程における化学物質を完全に理解することは、生産中に引き起こされるRSLリスクを特定するために必要なことです。

リスクが最も高い部材を優先的に試験すべきです。（セクション3と付表Dを参照）必要に応じて、川上の工程で材料を試験することよりも、構成部材や製品の化学物質分析試験をお勧めします。

## 7 RSLデータ管理システム

AFIRMグループが提唱するRSL試験は、12の製品タイプの約300種類の化学物質をカバーしています。全ての試験が、全ての材料タイプに適しているわけではありません。しかし、少量の分析でも、集まればブランドにとっては大量のデータとなり得ます。

ブランドが最先端のコンプライアンスプログラムを実施するためには、きちんとしたデータ管理システムを持つことが不可欠です。

このシステムによって、ブランドは以下のよう  
なことが可能となります。

- 製品タイプに関する自社のサプライチェーンを更によく評価できる。
- 信頼できるサプライヤーと、信頼できないサプライヤーを特定できる。
- さまざまな材料で、懸念の高い検体を特定できる。
- 適切な規則の立案者に対し、遵守していることを証明できる。
- 不適合の解決策と是正処置を効果的におこなうことができる。
- 供給元やサプライヤーに対して、透明性を保つことができる。

## 8 是正措置

全てのリスクを排除しようとしても、不適合事例の中には排除できないこともあります。個々の不適合の原因は多種さまざまです。RSLに違反するリスクをいかに減らすかを決めるために、根本から原因を追究する必要があります。付表Cの問題解決フォームを参照してください。これは、将来の参考として、またブランドの顧客に提供するため、記録し保存するのに役立ちます。

不適合事案に対しては、最適な是正措置計画を策定してください。今すぐ実施すべき重要事項は以下のとおりです。

- 不適合となった材料、製品の生産を全て中止する。
- 問題の範囲と、不適合となった材料がある場所を確認する。
- 供給元/サプライヤーと協力し、不適合となった材料の出荷停止を確認する。

フォローアップには次の項目も含まれます。

- 問題の根本原因を理解する。
- 問題が二度と起こらないようなシステムを決める。
- 問題のある供給元/サプライヤーへの監視を強化する。

## 9 RSL方針の更新と見直し

世界の法規は絶えず変化しています。方針も毎年見直すことが重要です。たとえば、AFIRM RSLは毎年1月に更新されます。その前年に行われたテストにより収集されたデータが、方針に対する情報更新に使われます。例えば、サプライチェーンが、方針に適合させるのに苦労しているような材料へ焦点を合わせたり、サプライチェーンにおいてリスクの低い材料を除いていくなどしています。